

鈴木唯 (東京大学大学院・修士課程)

suzuki.yui.s.y@gmail.com

**【要旨】** トルコ語には、 $[[N_1 \sim N_1]_{QP} N_2]_{NP}$  という名詞  $N_1$  の重複に名詞  $N_2$  が後続する形式で、「大量の  $N_1$  の (中に入った)  $N_2$ 」という意味を表す構文がある。本発表ではこの構文を「数量重複構文」と呼ぶ。重複によって数量が多いことを表すという類像性は通言語的によく見られるが (Haiman 1980: 530)、この構文は  $N_1$  の数量が多く、結果的に  $N_1$  の中に入った  $N_2$  の数量も多いことを表す点が興味深い。しかし、この構文の形式と意味について詳細な記述が存在しない。そこで、本発表では数量重複構文について、エリシテーションによって得たデータを基に、その形式と意味を記述し、次の4点を明らかにする: (a) 形式について、数量重複構文の  $N_1 \sim N_1$  は数量詞や数詞 (+ 単位名詞) と同じ統語的性質をもつ。意味について、(b) 数量重複構文で繰り返される名詞は①容器または②グループを表す単位名詞に限られ、(c) 数量重複構文が動詞の項となる場合、その単位ごとに共起する動詞の表す事象が起きている必要がある。(d) 数量重複構文の名詞句は不定の解釈である。さらに、数量重複構文について類像性の観点から統一的に分析する。こうして、本発表は、トルコ語の記述研究だけでなく、数量表現や類像性、重複に関する言語類型論的研究にも貢献することができる。

## 1. はじめに

- トルコ語<sup>1</sup>には、 $[[N_1 \sim N_1]_{QP} N_2]_{NP}$  という名詞  $N_1$  の重複に名詞  $N_2$  が後続する形式で、「大量の  $N_1$  の (中に入った)  $N_2$ 」すなわち、 $N_2$  で満ちた  $N_1$  が大量にあり、 $N_2$  の数や量が多いことを表す用法がある (1)(2)。

- |  |                                    |
|--|------------------------------------|
| (1) <i>kutu~kutu</i> <i>kitap</i>        | (2) <i>bardak~bardak</i> <i>su</i> |
| box~box          book                    | glass~glass        water           |
| 「大量の箱の本」 (Göksel and Kerslake 2005: 100) | 「大量のグラスの水」                         |

- (1) では *kitap* 「本」で満ちた *kutu* 「箱」が「大量」にあり、*kitap* 「本」の数が多いことを表す。「箱」の中に「本」があまり入っていない、又は箱が1、2箱しかない状況を表すのに適切ではない。
  - (2) では *su* 「水」で満ちた *bardak* 「グラス」が「大量」にあり、*su* 「水」の量が多いことを表す。
- 重複とは語以下の単位の言語形式を繰り返すことで語を形成する形態論的操作のことである (Gil 2005: 35)。この構文は次の点からも重複の基準 (Gil 2005) を満たしており、重複である (例は (1) の *kutu kutu* から)。
  - 繰り返される要素の間に他の要素が入ることができない。(\**kutu ve kutu* (*ve* は ‘and’ を意味する))
  - 繰り返し全体に一つのアクセントを持つ。(*kutu~kutu*)
  - 繰り返すことによるのみ得られる慣習的な意味がある。(*kutu* 「箱」→*kutu~kutu* 「大量の箱の」)
- 本発表ではこの構文を「数量重複構文」と呼ぶ。
- 重複によって数が多いことを表すという類像性は通言語的によく見られるが (Haiman 1980: 530)、この構文は  $N_2$  が入った  $N_1$  の数量が多く、結果的に  $N_2$  の数量も多いことを表す点が興味深い。
- しかし、数量重複構文について詳細で体系的な記述はなされていない。
  - トルコ語の参照文法である Göksel and Kerslake (2005: 100) や Kornfilt (1997: 433) では (1) のような例

\* 本予稿集の作成にあたって、長屋尚典、島健太、高城隆一、谷川みずき、諸隈夕子、吉田樹生の各氏から有益なコメントを頂いた。深く感謝を述べたい。むろん誤りはすべて発表者の責任である。

<sup>1</sup> トルコ語は、チュルク諸語オグズ語群に属する。基本語順は SOV で、膠着語タイプの言語である。

を挙げ、名詞を重複することで数量が多いことを表すと述べているのみである。

- ◆ 数量重複構文には、以下の興味深い問題点がある。
  - ▶ どのような名詞も繰り返すことができるわけではない (3)(4)。
  - ▶ 数量重複構文が動詞の項に現れる場合、動詞によって文の容認度が異なる (5)(6)。

- |  |  |
|--|--|
| (3) * <i>somun~somun ekmek</i><br>loaf~loaf bread<br>意図:「大量の塊のパン」                    | (4) * <i>el-el kitap</i><br>hand~hand book<br>意図:「大量の手の本」                            |
| (5) <i>Kutu-kutu kitap taşı-dı-m.</i><br>box~box book carry-PST-1SG<br>「大量の箱の本を運んだ。」 | (6) ? <i>Kutu-kutu kitap oku-du-m.</i><br>box~box book read-PST-1SG<br>「大量の箱の本を読んだ。」 |

- ◆ そこで、上記の問題点も含め、本発表では数量重複構文について、エリシテーションによって得たデータを基に、その形式の意味の記述・分析を行う。具体的には、主に以下の4点を明らかにする:

- (7) a. 数量重複構文の**重複部分  $N_1\sim N_1$  は数量詞や数詞 (+単位名詞) と同じ統語的性質をもつ。**  
 b. 数量重複構文で使うことができるのは①**容器**または②**グループを表す単位名詞**に限られる。  
 c. 数量重複構文が動詞の項となる場合、**名詞  $N_1$  の表す単位ごとに動詞の表す事象が起こる必要がある。**  
 d. 数量重複構文の名詞句は**不定の解釈をもつ。**

- ◆ 本発表の構成:
  - ▶ 第2節: 数量重複構文を扱う前にトルコ語の数量表現を含む名詞句構造について概観する。
  - ▶ 第3節: 数量重複構文の形式について記述し、(a) を明らかにする。
  - ▶ 第4節: 数量重複構文の意味について記述し、(b)(c)(d) を明らかにする。
  - ▶ 第5節: 類像性の観点から数量重複構文について統一的分析を示す。
  - ▶ 第6節: 本発表をまとめる。

## 2. トルコ語の数量表現を含む名詞句の構造

- ◆ 数量重複構文について扱う前に、本節ではトルコ語の数量表現含む名詞句の構造を概観する。
- ◆ トルコ語の名詞句は、主要部後置型である (Göksel and Kerslake 2005:162-165) (8)(9)。

- |   |   |
|---|---|
| (8) 形容詞を含む名詞句<br><i>eski kitap</i><br>old book<br>「古い本」 | (9) 関係詞を含む名詞句<br><i>ben-im oku-duğ-um kitap</i><br>1SG-POSS read-REL-1SG book<br>「私の読んだ本」 |
|---|---|

- ◆ トルコ語では、数量表現 (数量詞や数詞) は名詞 (句) に先行する (10)-(13)。本発表では、この数量表現はQPを成すと考える。

- ▶ *çok*「沢山の」などの数量詞が、後続する名詞 (句) の数量を表す (10)。
- ▶ 数詞で数量を表す場合、数詞のみ (11)、あるいは数詞+単位となる名詞 (12)(13) で表す。

- |  |   |   |   |
|--|---|---|---|
| (10) <i>çok elma</i><br>many apple<br>「沢山のリンゴ」 | (11) <i>3 elma</i><br>3 apple<br>「3個のリンゴ」 | (12) <i>3 tane elma</i><br>3 item apple<br>「3個のリンゴ」 | (13) <i>3 kasa elma</i><br>3 case apple<br>「3ケースのリンゴ」 |
|--|---|---|---|

- ◆ 本発表では、*tane* ‘item’ (12) や *kasa* ‘case’ (13) のように数詞と共起し、単位となる名詞を「**単位名詞**」と呼ぶ。
  - ▶ 先行研究では、“enumerator”、“measure word” (Göksel and Kerslake 2005: 206)、“classifiers” (Lewis 2000: 77)、“classifier-like element” (Kornfilt 1997: 430) などの用語が当てられているが、混乱をさけるためにこれらの用語は使用しない。
- ◆ 数量表現が指示詞または形容詞と共起する際は、指示詞+数量表現+形容詞+名詞の語順になる (14)(15)。

(14) 指示詞+数量表現+名詞

*bu*      3      (*tane*) *elma*  
 this      3      item    *apple*  
 「この3個のリンゴ」

(15) 数量表現+形容詞+名詞

3 (*tane*) *büyük elma*  
 3 item    big    *apple*  
 「3個の大きなリンゴ」

- ◆ 本発表では、(15) に [QP N]<sub>NP</sub> という統語構造を考える。
- ◆ トルコ語には文法的な可算名詞・不可算名詞の明確な区別がないものの、物質名詞は数量詞や数詞と共起することはあまりない (Göksel and Kerslake 2005:163-164)。
  - ▶ 当該の物質の慣習的な計量の単位が文脈で明確な場合は、数量詞や数詞と共起することがある (16)。
  - ▶ また、数詞と単位名詞を使い、数量を表すこともできる (17)。

(16) *Bakkal-dan*      *birkaç bira*    *al.*

shop-ABL          a.few beer    buy  
 「店から2、3(瓶)のビールを買って。」

(17) 3 *şişe*    *bira*

3 bottle beer  
 「3瓶のビール」

(Adopted from Göksel and Kerslake 2005:163-164)

### 3. 数量重複構文の形式

- ◆ 本節では、数量重複構文の形式について記述を行い、数量重複構文の重複部分  $N_1 \sim N_1$  は数量詞や数詞 (+ 単位名詞) と同じ統語的性質をもち、[[ $N_1 \sim N_1$ ]<sub>QP</sub>  $N_2$ ]<sub>NP</sub> を成すことを示す。
- ◆ まず、数量重複構文の重複部分  $N_1 \sim N_1$  は QP を形成し、数量詞や数詞+単位名詞の数量表現と同じ句構造上の位置を占める。
  - ▶ 重複部分  $N_1 \sim N_1$  は (10)-(13) で挙げた他の数量表現と置き換えることができる (18)。
  - ▶ 重複部分  $N_1 \sim N_1$  は単位名詞と同じ句構造上の位置を占めていない (19)。

(18) *çok / 3 kutu / kutu~kutu*      *kitap*

many / 3 box / box~box      book  
 「多くの / 3箱の / 大量の箱の本」

(19) 100      {*kutu / \*kutu~kutu*}      *kitap*

100      {box/box~box}      book  
 意図: 「100 {箱の / \*の大量の箱の} 本」

- ◆ 次に、重複部分 [ $N_1 \sim N_1$ ]<sub>QP</sub> に、に後続する  $N_2$  は名詞句相当が後続することもある (20)。

(20) *kutu~kutu*      *eski*    *kitap*

box~box          old    book  
 「大量の箱の古い本」

- ◆ このように、数量重複構文は全体で [[ $N_1 \sim N_1$ ]<sub>QP</sub>  $N_2$ ]<sub>NP</sub> を成し、重複部分  $N_1 \sim N_1$  は数量詞や数詞 (+ 単位名詞) と同じ統語的性質をもつ。



(30) <i>sürü~sürü</i> <i>koyun</i>	(31) <i>grup~grup</i> <i>insan</i>	(32) <i>deste~deste</i> <i>çiçek</i>
herd~herd      sheep	group~group      person	bunch~bunch      flower
「大量の群れの羊」	「大量のグループの人」	「大量の束の花」

◆ ③**度量衡を表す単位名詞**: 数量重複構文の繰り返される名詞に使うことができない<sup>2</sup>。

- ▶ *kilo* 「キロ」、*litre* 「リットル」、*metre* 「メートル」は度量衡の単位名詞である (33)-(35)。
- ▶ それぞれの度量衡の単位名詞は数量重複構文に使うことができない (36)-(38)。

(33) 3 <i>kilo</i> <i>elma</i>	(34) 3 <i>litre</i> <i>süt</i>	(35) 3 <i>metre</i> <i>halat</i>
3 kilo    apple	3 little    milk	3 meter    rope
「3 キロのリンゴ」	「3 リットルの牛乳」	「3 メートルの紐」
(36) ? <i>kilo-kilo</i> <i>elma</i>	(37) ? <i>litre~litre</i> <i>süt</i>	(38) * <i>metre~metre</i> <i>halat</i>
kilo-kilo    apple	little~little    milk	meter~meter    rope

◆ ④**個数を数える単位名詞**: 数量重複構文の繰り返される名詞に使うことができない。

- ▶ *somun* 「塊」、*diş* 「欠片」、*parça* 「枚」は個々に分かれる物体を一つ一つ数える単位名詞である<sup>3</sup> (39)-(41)。
- ▶ それぞれの個数を数える単位名詞は数量重複構文に使うことができない (42)-(44)。

(39) 3 <i>tane</i> <i>elma</i>	(40) 3 <i>somun</i> <i>ekmek</i>	(41) 3 <i>diş</i> <i>sarmsak</i>
3 piece    gum	3 loaf      bread	3 tooth    garlic
「3 個のリンゴ」	「3 個のパン」	「3 欠片のニンニク」
(42) * <i>tane~tane</i> <i>elma</i>	(43) * <i>somun~somun</i> <i>ekmek</i> (=3)	(44) * <i>diş~diş</i> <i>sarmsak</i>
tane~tane    apple	loaf~loaf      bread	tooth~tooth    garlic

◆ ⑤**非単位名詞**: 数量重複構文の繰り返される名詞に使うことができない。

- ▶ *el* 「手」、*masa* 「机」は単位名詞にならない (45)(46)。ほとんどの名詞がここに当てはまる。
- ▶ それぞれの単位にならない名詞は数量重複構文に使うことができない (47)(48)。

(45) *3 <i>el</i> <i>taş</i>	(46) *3 <i>masa</i> <i>kitap</i>
3      hand    stone	3      table    book
「手 3 本分の本」	「3 つの机分の本」
(47) * <i>el~el</i> <i>taş</i> (=4)	(48) * <i>masa~masa</i> <i>kitap</i>
hand~hand    stone	table~table    book
「大量の手分の石」	「大量の机分の本」

◆ このように、数量重複構文において、繰り返される名詞は容器やグループを表す単位名詞に限られる。

## 4.2. 共起する動詞の制限

◆ 本節では、数量重複構文が動詞の項として現れる場合について検討する。他動詞、自動詞の全ての項でのふるまいを検討する。主語形容詞述語文と存在文の項に現れる場合については第 4.3 節で扱う。

<sup>2</sup> 話者によって容認度が異なる。(36)-(38) のすべてが完全に容認されないという人もいる一方で、(36)(37) のような重さの単位は容認度が低く、(38) のような長さの単位は完全に容認されないという人もいた。このように容認度に段階性があることから繰り返される名詞としてのプロトタイプであるものとそうでないものがあると考えられる。

<sup>3</sup> (43) の *somun* はフランスパンのような形を指し、(44) ではニンニクの形状からの *diş* 'teeth' が使われている。

- ◆ 数量重複構文は動詞の項として現れる場合、**名詞 N<sub>1</sub> の表す単位ごとに動詞の表す事象が起きている必要がある** (49)(50)。

・ 本を箱単位で運ぶという解釈 (49)、リンゴを袋単位で買うという解釈 (50) で文法的である。

(49) <i>Kutu~kutu</i>	<i>kitap taşı-dı-m.</i>	(50) <i>Çuval~çuval</i>	<i>elma al-dı-m.</i>
box~box	book carry-PST-1SG	sack~sack	apple buy-PST-1SG
「大量の箱の本を運んだ。」		「大量の袋のりんごを買った。」	

- ◆ ただし、数量表重複構文は、動詞が表す行為が複数回であることは含意していない。
  - ・ (49) の *taşı*「運ぶ」、(50) の *al*「買う」という行為が行われたのが一度なのか複数なのかはわからない。
- ◆ 名詞 N<sub>1</sub> の表す単位ごとに動詞の表す事象が起きていない場合、容認度が下がる (51)(52)。
  - ・ 本を箱単位で読むことは想像しにくい (51)。
  - ・ 同様に、リンゴを袋単位で食べることは想像しにくい (52)。

(51) ? <i>Kutu~kutu</i>	<i>kitap oku-du-m.</i>	(52) ? <i>Çuval~çuval</i>	<i>elma ye-di-m.</i>	(=(5))
box~box	book read-PST-1SG	sack~sack	apple eat-PST-1SG	
「大量の箱の本を読んだ。」		「大量の袋のりんごを食べた。」		

- ◆ ここまで、他動詞の目的語に現れる数量重複構文を扱ったが、名詞 N<sub>1</sub> の表す単位が動詞の表す動作の単位であれば、主語にも表れることができる (53)(54)。

(53) 他動詞主語		(54) 自動詞主語	
<i>Sürü~sürü</i>	<i>koyun çimen yi-yor.</i>	<i>Gemi~gemi</i>	<i>mal deniz-e bat-tı.</i>
herd~herd	sheep grass eat-PRES	ship~ship	goods sea-DAT sink-PST
「大量の群れの羊が草を食べている。」		「大量の船の商品が海に沈んだ。」	

- ◆ このように、数量重複構文は、容器またはグループを表す単位名詞の重複が、後続する名詞句の指示物の数量が多いこと、そして共起する動詞の表す事象がその単位ごとに起きていることを表す。

#### 4.3. 談話的な制限

- ◆ 数量重複構文の名詞句は定性に関して不定の解釈をもつ。
  - ・ このことは話者の判断だけでなく、次の3つの観察がある。
- ◆ **観察(1) 示差的目的語標示:** 数量重複構文の目的語が対格標示をもつと容認度が下がる (55)(56)。
  - ・ トルコ語では、動詞の直前の対格標示のある目的語は特定 (specific) の解釈をもつ (Heusinger and Kornfilt 2005)。

(55) 対格標示なし		(56) 対格標示あり	
<i>Kutu~kutu</i>	<i>kitap taşı-dı-m.</i>	? <i>Kutu~kutu</i>	<i>kitab-ı taşı-dı-m.</i>
box~box	book carry-PST-1SG	box~box	book-ACC carry-PST-1SG
「大量の箱の本を運んだ。」		「大量の箱の本を運んだ。」	

- ◆ **観察(2) 限定修飾:** 数量重複構文を限定修飾すると容認度が下がる (57)(58)。
  - ・ 修飾による限定をすると被修飾名詞句は定の解釈をもつ。

(57) 関係詞節による修飾

?ben-im ver-diğ-im kutu~kutu kitap  
 1SG-POSS give-REL-1SG box~box book  
 「私があげた大量の箱の本」

(58) 指示詞による修飾

?bu kutu~kutu kitap  
 this box~box book  
 「この大量の箱の本」

◆ **観察(3) 形容詞述語文:** 数量重複構文が、存在文の主語の場合と異なり、形容詞述語文の主語に現れると容認度が下がる (59)-(61)。

・ 存在文の主語は不定の解釈をもち、形容詞述語文の主語は定の解釈をもつ傾向にある。

(59) 存在文

Kutu~kutu kitap var.  
 box~box book exist  
 「大量の箱の本がある。」

(60) 形容詞述語文

?Kutu~kutu kitap ağır.  
 box~box book heavy  
 「大量の箱の本は重い。」

(61) 形容詞述語文

?Kutu~kutu kitap enteresan.  
 box~box book interesting  
 「大量の箱の本は面白い。」

## 5. 数量重複構文の統一的理解と類像性

3節・4節の分析で、数量重複構文について(7)を明らかにした。では、この構文の諸特質はどのように理解すればいいのであろうか? お互いに独立したものなのだろうか。本節では重複と類像性の観点からこの構文の統一的理解を試みる。第一に、重複表現が複数、多量、多数などの数量表現に対応すること(7a)は通言語的によくあり不思議ではない(Gil 2005, Rubino 2005)。第二に、 $N_1$ が容器またはグループを表す単位名詞に限られることは(7b)、多数量を表す表現と容器・グループを表す名詞の親和性があるためかもしれない(e.g., インドネシア語 *berbotol-botol bir* ‘bottles and bottles of beer’ (Sneddon 2010: 145))。第三に、数量重複構文は共起する動詞の表す事象が単位名詞  $N_1$  ごとに離散的に起きていることを表すが(7c)、通言語的に重複が離散性(distributivity)を表すことはよくある(Rubino 2005: 21)。最後に、数量重複構文が不定の解釈を持つことを指摘したが(7d)、通言語的にも名詞の重複が不定を表すことはよくみられる(Rubino 2005: 21)。このように、数量重複構文のさまざまな性質はお互いに無関係なものではなく、類像性に動機づけられたものとして統一的理解できる。

## 6. まとめ

本発表は、数量重複構文の形式と意味について記述し、(7)を主張した。さらに、数量重複構文について類像性の観点から統一的分析した。こうして、本発表は、トルコ語の記述研究だけでなく、数量表現や類像性、重複に関する言語類型論的研究に貢献した。

**【略号一覧】** ABL-ablative, ACC-accusative, DAT-dative, PL-plural, POSS-possesive, PRES-present, PST-past, REL-relative, SG-singular, 1-first person

**【参考文献】** Gil, David. 2005. “From Repetition to Reduplication in Riau Indonesian.” In *Studies on Reduplication*, edited by Bernhard Hurch, 31–64. Berlin: Mouton de Gruyter. / Göksel, Aslı, and Celia Kerslake. 2005. *Turkish: A Comprehensive Grammar*. Oxon: Routledge. / Haiman, John. 1980. “The Iconicity of Grammar: Isomorphism and Motivation.” *Language* 56 (3): 515–40. / Heusinger, Klaus, and Jaklin Kornfilt. 2005. “The Case of the Direct Object in Turkish: Semantics, Syntax and Morphology.” *Turkic Languages* 9: 3–44. / Kornfilt, Jaklin. 1997. *Turkish*. London; New York: Routledge. / Lewis, Geoffrey. 2000. *Turkish Grammar*. 2nd ed. New York: Oxford University Press. / Rubino, Carl. 2005. “Reduplication: Form, Function and Distribution.” In *Studies on Reduplication*, edited by Bernhard Hurch, 11–29. Berlin: Mouton de Gruyter. / Sneddon, James N. 2010. *Indonesian Reference Grammar*. 2nd ed. Crows Nest, N.S.W: Allen & Unwin.